The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	生涯学習時代の懐徳堂
Author(s)	若槻, 哲雄
Citation	懐徳. 1988, 57, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90691
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

生涯学習時代の懐徳堂

懐徳堂記念会評議員
若　槻　哲　雄

昨年、臨時教育審議会の教育改革に関する第三次答申において、これまでの学校教育中心の考え方から脱却して、生涯教育体系への移行が勧告されて以来、生涯学習という言葉がよく使われるようになった。

生涯学習とは、人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的に自ら選んだ手段・方法で生涯を通じて行なう学習であり、その学習の機会ないしは場としては家庭教育・学校教育・社会教育の三者がある。このうちで、生涯の各時期において、自主的な学習機会を提供する社会教育に、いま改めて深い関心が寄せられているのである。

ところで現在、大阪での成人一般の学習者の数はどの位であろうか。昭和五十八年に大阪府社会教育委員会議が「大阪府における生涯教育体制の整備について」という答申をまとめているので、それによって概略の人数をあたってみることにする。

この答申によると、大阪府が学習機会を提供している事業の量は、参加人数にプログラム時間数を乗じた「人・時間」単位で表して百八十五万四千「人・時間」である。

大阪市も政令指定都市として、独自に生涯教育関連事業を行なっており、その事業量は百四十六万

九千「人・時間」である。これらを内容別にすると、（指導者養成・研修等を含んで）、「健康・スポーツ」四十六（四十七・七）パーセント、「教養・文化」十九・八（十四・四）パーセント、「職業・技術学習」十九・三（三・一）パーセント、「市民・社会学習」十四・三（十七・六）パーセント、「家庭生活学習」〇・五（十七・三）パーセント、となっている。割合を示す数字の前が大阪府、括弧のなかが大阪市のものである。

「健康・スポーツ」関係が大きな比重を占めているが、懐徳堂講座との関連を考えて、以下では「教養・文化」関係だけを取り上げると、大阪府・市での事業量の合計は五十八万「人・時間」であり、仮に一プログラムを、平均して一回二時間を六回行なう講座とすれば、受講者総数は約四万八千人となる。

以上の広域的事業以外に、府下には大阪市の他に三十一市十一町一村があり、それぞれに生涯学習事業を行ない、また大阪市内では、区ごとに区民センターや区民ホールがあって同様の事業を行なう。各市町村が開催する「教養・文化」関係の講座数を年平均三十程度とすると、大阪市内の分を加えて総数は約千三百講座となり、一講座四十人として受講者の総数は五万二千人となる。なお府内には公民館二百六十一、図書館百八、博物館二十一等があり、学習者のために役立っている。

大阪でのカルチャーセンターの規模は昭和五十七年度講座数千七百三十、学級数三千五百四十四であった。このうちで「教養・文化」関係の講座は四十パーセント程度とみられるので、一学級平均三十人としてその受講者数は四万二千人となる。

以上の合計だけで十四万二千人に上り、さらに大学の開放講座や、テレビ、ラジオによる放送講座等もあって、多様な人々の要望に答えている。

社会が豊かになり、国際化、情報化、高齢化といった情勢の変化の中で、生涯にわたって学習し、教養を深めていこうという人はこのように多くなり、しかもその意欲、関心は今後ますます高まっていくことと考えられる。その影響は懐徳堂への関心にもつながっていくであろう。

生涯学習のプログラムは実に多種多様であり、開設する団体や機関も広い範囲にちらばっているので、その情報を個人が得やすくするために、昭和五十六年に府立文化情報センターが中之島に設立された。このセンターは運営の面でも好評で、文化センターの役割を果たしている。以来、ここで懐徳堂記念講座が開かれるようになったのは、市民に身近かになって非常によかったと思う。以前は阪大医学部の南側にあった阪大本部の小講堂で行なわれていたが、その頃に比べると受講者が非常に増加して活気を呈していると聞くのは、うれしいことである。

江戸中期から二百年以上にわたって、大阪の人々に支えられ、続いてきた懐徳堂の講座が、懐徳堂記念会、大阪大学文学部、府立文化情報センターの三者共催で行なわれるというのも、過去の歴史にも沿うものであろう。

生涯学習の時代にあって、多彩な学習講座の中でも、古典に基礎を置き二百年の伝統を持つ懐徳堂記念講座は、いぶし銀のような存在であり、またときには古典のみならず、新しい学問の進歩を取り上げた講話が行なわれるのも魅力であろう。

昭和五十八年から、懐徳堂・友の会が発足したのも時宜にあっており、懐徳堂に関する行事も広がり、先人の事蹟を顕彰し、その進取の精神を普及するのにも、大いに貢献するものと信じる。関係者のご努力に敬意を表するとともに、さらに一層の発展を期待したい。

（大阪大学名誉教授・大阪府教育委員長）